

フリードリヒ・エーベルハルト・
フォン・ロヒョーの生涯、思想お
よび業績について (その4)

田 中 昭 徳

ロヒョーに関する文献 (Ⅱ)

- (100) L. シュマーリンク著『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの著作《是正》に関して、ロヒョーなどに宛てた手紙』(L. Schmalting, *Briefe an Friedrich Eberhard von Rochow etc. über die Berichtigungen desselben von Ludwig Schmalting, Kircheninspektor zu Osterwieck*)。クヴェードリンブルク 1794年刊。
- (101) 『両親、教育者、教師および子供の友のための、最新の教育書についての手引き』(*Literarisch= pädagogisches Handbuch für die Eltern, Erzieher, Lehrer und Kinderfreunde zur Kenntnis der neuesten Erziehungsschriften mit zweckmäßigen Beurteilungen. Inhaltsangaben und beigeseztem Preise*)、第4輯。ハルバーシュタット 1794年刊。
27-29頁：ロヒョー著『教科書試案』(No.4) 紹介。72頁：ロヒョー著『わたしの学校の歴史』(No.66) 紹介。
- (102) 「デア・ライヒスアンツァイガー」(*Der Reichsanzeiger*) 新聞、第24号。ゴータ 1794年刊。
221面：農業家としてのロヒョーの意義 (Rochows Bedeutung als

Ökonom)。

(103) 同一紙名, 第 286 号。ゴータ 1795 年刊。

2903 面: 農業家としてのロヒョーの意義 (継続)。

(104) 同一紙名, 第 288 号。ゴータ 1796 年刊。

6708 面: 農業家としてのロヒョーの意義 (継続)。

(105) 「ドイツ国民新聞」(*Nationalzeitung der Teutschen*)。ゴータ 1796 年刊。

123 頁: 乞食の除去にたいするロヒョーの功績。

(106) A. H. ニーマイヤー著『教育および教授の原則——両親, 家庭教師および教育者のために——』(*August Hermann Niemeyer, Grundsätze der Erziehung und des Unterrichts für Eltern, Hauslehrer und Erzieher*)。

ハルレ 1796 年刊。

13, 392, 446, 451 頁その他: ロヒョーの功績。

(107) 「下ライン地方の政治および文芸のイーリス」(*Politische und literarische Iris vom Niederrhein*), Nr. 14。クレーフェルト フランス共和国革命暦第 5 月*11 日刊。

ロヒョーにたいする賞讃。

※ 第 5 月 (Pluviôse—雨月) は 1 月 20 (21, 22) 日より 2 月 19 (20, 21) 日までを謂う。

(108) 熟練教師協会編集『言語学・教育学・実践哲学雑誌』(*Magazin der Philologie, Pädagogik und praktischen Philosophie. herausgegeben von einer Gesellschaft erfahrener Schulmänner*)。シュテンダル 1797 年刊。

49頁: ロヒョーについて。

(111) J.G. モイゼル著『教養ドイツ』(Johann Georg Meusel, *Das gelehrte Deutschland*), 第6巻。レムゴ 1798年刊。

389-91頁: ロヒョーの著作。

(112) 同一書名, 第10巻。レムゴ 1803年刊。

493頁: ロヒョーの著作。

(113) 同一書名, 第11巻。レムゴ 1805年刊。

645頁: ロヒョーの著作。

(114) S. Chr. ヴァーゲナー編集『ドイツのための愛国文庫』(*Patriotische Archiv für Deutschland. Der Gottheit, den Fürsten, dem Vaterlande gewidmet von Samuel Christoph Wagener. Im Selbstverlage und auf Kosten den des Herausgebers*), 第1年次分, 第1巻。ベルリン 1799年刊。

197-211頁: 賦役の廃止にたいするロヒョーの功績。

(115) 同一書名, 第2年次分, 第1巻。ベルリン 1801年刊。

224-33頁: マルク経済協会におけるロヒョーの活躍。

(116) 同一書名, 第2年次分, 第2巻。ベルリン 1802年刊。

28-32頁: ロヒョーの学校について。

(117) J.E. ビースター編集『新ベルリン月刊雑誌』(*Neue Berlinische Monatsschrift. herausgegeben von J.E. Biester*), 第2巻。ベルリン
およびシュテッティン 1799年刊。

(152)

。人文研究 第三十三輯

457-65 頁：大聖堂参事会員 フォン・ロヒョーの学校における教授ならびに彼の著書『子どもの友』について。

(118) 同一誌名, 第4巻。ベルリンおよびシュテッティン 1800年刊。

354-56 頁：レカーンの農民集会所。

(119) 同一誌名, 第11巻。ベルリンおよびシュテッティン 1804年刊。

122-46 頁：「フォン・ロヒョーとペスタロッチ——別名, 民衆教育の基礎について」(署名, リースマン)。

(120) A.H. ニーマイアー著『公立の学校および教育施設の組織について』

(August Hermann Niemeyer, *Über die Organisation öffentlicher Schulen und Erziehungsanstalten*)。ハルレ 1799年刊。

122 頁：ロヒョーにたいする評価。

(121) F.S.G. ザック著『農村学校の改善について——主としてクールマルク・ブランデンブルクにおける——』(Friedrich Sam. Gottfr. Sack, *Über die Verbesserung der Landschulen, vornehmlich in der Kurmark Brandenburg*)。ベルリン 1799年刊。

33 頁および 41 頁にロヒョーについての記述がなされている。

(122) 『農村学校教師のための雑誌』(*Magazin für Landschullehrer*), 第1巻, 第1号。リーグニッツ 1799年刊。

93 頁以下 および 282 頁以下にロヒョーについての記述がなされている。

(123) 同一誌名, 第2巻, 第1号。リーグニッツ 1800年刊。

127-53, 267-303, 430-67 頁に同じくロヒョーについての記述がなされている。

(124) 『ドイツ国民新聞』。ゴータ 1800 年刊。

752 頁：ロヒョーはフェールベルリン近郊に戦勝記念碑を建立した。

(125) 同一紙名。ゴータ 1805 年刊。

420-22 頁：ロヒョーへの哀悼の辞ならびにロヒョーの伝記。

(126) J. Chr. Fr. グーツ＝ムーツ著『教育学文献文庫』(Johann Christoph Fr. Guts=Muths, *Bibliothek der pädagogischen Literatur*)。1800 年刊。

第 2 巻第 2 部 247 頁および第 3 巻第 2 部 406 頁にロヒョー著『子どもの友』についての批評がなされている。

(127) A. H. ニーマイヤー著『ドイツ教育学と 18 世紀におけるその諸学説』(August Hermann Niemeyer, *Ansichten der deutschen Pädagogik und ihrer Geschichte im 18. Jahrhundert*)。ハルレ 1801 年刊。

48 頁および 57 頁：ロヒョーにたいする評価。

(128) K. S. ザッハリエ著『国家による人類の教育について』(K. S. Sachariä, *Über die Erziehung des Menschengeschlechts durch den Staat*)。

ライプチヒ 1802 年刊。

310 頁：ロヒョーの意義について。

(129) H. G. ツェーレンナー編集『新ドイツ学校の友』(*Der Neue deutsche Schulfreund. Ein nützliches Hand= und Lesebuch für Lehrer in Bürger= und Landschulen.* hersg. von H. G. Zerrenner), 第 2 巻。ベルリンおよ

(154)

人文研究 第三十三輯

びシュテッティン 1802 年刊。

1-20 頁にロヒョーについての叙述がなされている。

(130) 同一誌名, 第 4 卷。ベルリンおよびシュテッティン 1804 年刊。

86-95 頁に同様にロヒョーについての叙述がなされている。

(131) 同一誌名, 第 10 卷。ベルリンおよびシュテッティン 1806 年刊。

110 頁: ロヒョー著『子どもの友』について。

(132) C. L. ハーンツォーク著『民衆の啓蒙について。別名——農民が啓蒙されるのと従来の状態にとどめおかれるのと何れが得策であるかについて』(C. L. Hahnzog, *Über Volksaufklärung, oder ob es ratsam sei, daß der Bauer aufgeklärt oder in seiner hisherigen Kultur erhalten werde*)。マクデブルク 1803 年刊。

(133) G. ボルマン著『学校教師, とくに下級市民学校および農村学校教師のための手引き = 教育方法書』(G. Bormann, *Hand- und Methodenbuch für Schullehrer, besonders für die in den niedern Bürger- und Landschulen*)。ライプチヒ 1803 年刊。

(134) 『ヴェストファリシャー・アンツァイガー』(*Westfälischer Anzeiger*) 新聞, Nr. 61。1803 年刊。

968-72 面: ロヒョーは学校改革の構想を明らかにした。

(135) 『プロイセン全国旅行紀』(*Reise durch sämtlichen Königlichen Preußischen Provinzen*)。ベルリン 1804 年刊。

38, 46-47 頁: レカーンの学校。

- (136) J. D. シュルツェ著『ドイツ国における全教育制度に関する文献史』
J. D. Schulze, *Literaturgeschichte der sämtlichen Schulen und Bildungs-*
anstalten im Deutschen Reiche), 第2巻。ライプチヒおよびヴァイセンフ
ェルス 1804年刊。

69-70 頁にはロヒョーについての記述がなされている。

- (137) A. テーラー著『説教師 ハーンツォーク氏の論文《農民の啓蒙に
ついて》を評す』(A. Teller, *Beitrag zu des Herrn Predigers Hahnzog*
Abhandlungen „Über die Aufklärung der Bauern“)。ベルリン 1804年
刊。

この書はロヒョーに捧げられたものである。

- (138) F. E. Chr. マルトゥス「故フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・
ロヒョー氏への追悼説教」(*Gedächtnispredigt auf den Hochwürdigen und*
Hochwohlgebohrnen Herrn Friedrich Eberhard von Rochow, des hohen Dom-
stifts zu Halberstadt Capitularen und Portenarius; des Johanniterorden^s
Ritter; Erb- und Gerichtsherrn auf Recan, Crane, Gettin, Mesdunk, Rott-
scherlinde und Brückermark; am ersten Pfingstfeyertag 1805 gehalten. Nebst
der am Grabe Desselben gehalten Rede von Friedrich Eberhard Christian
Martus, Prediger zu Crane, Recan, Gettin, und Mesdunk)。ライヒ図書印
刷所印刷, ブランデンブルク 1805年刊。

3-8 頁: 弔辞, 8-25 頁: 追悼説教, 26 頁: 結び——生涯 (vita)。

- (139) 「国王特許ベルリン国事・学芸新聞」(*Königl. priv. Berlinische*
Zeitung von Staats- und gelehrten Sachen), 1805年5月18日号。

60 面: ロヒョーの死亡広告。

(140) 「ハルレ文芸新聞広告新聞」(*Intelligenzblatt der Halleschen Lileraturzeitung*)。ハルレ 1805 年刊。

Nr. 88, 712 頁および Nr. 95, 763 頁：ロヒョー死亡広告ならびに追悼の辞。

(141) 「ツァイトゥング・フュアー・ディ・エレガンテ・ヴェルト」(*Zeitung für die elegante Welt*)。ライプチヒ 1805 年刊。

6 月 18 日号, 73 面：ロヒョーにたいする追悼の辞。

(142) ハルバーシュタット文芸協会編集, 貧民福祉のための週間誌『1806 年の公益扶助』(*Gemeinnützige Unterhaltungen für 1806. Eine Wochenschrift zum Besten der Armen, herausgegeben von der Literarischen Gesellschaft zu Halberstadt*), 第 1 卷。ハルバーシュタット 1806 年刊。

33-46, 49-60, 65-80, 81-95, 97-109 頁：フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー, G.H. ツェーレンナーについて。

(143) R. ダップ編集『農村および小都市の説教師のための公益雑誌』(*Gemeinnütziges Magazin für Prediger auf dem Lande und in kleinen Städten. hersg. von R. Dapp*), 第 1 卷, 第 3 号。ベルリンおよびシュテッティン 1806 年刊。

34 頁以下：クライン＝シェーネベックの教師ハインリヒ・リュープケの修業にたいするロヒョーの功績。

(144) K. F. リーマン著『民衆学校におけるロヒョーの教授法——ペスタロッチその他のそれと比較して見た——』(*Beschreibung der von Rochowschen Lehrart in Volksschulen nebst Vergleichung derselben mit der*

Pestalozzischen und mit anderen Lehrart.), 新訂第4版。ベルリンおよび
シュテッティン 1809年刊。

- (145) B. C. L. ナトルプ編『若干の学校教師および校友との往復書簡』
(*Briefwechsel einiger Schullehrer und Schulfreunde*. Herausgegeben von
B. C. L. Natorp), 第1集(Ites Bändchen)。デュースベルクおよび
エッセン 1811年刊。

36-61頁：ロヒョーの教授法について。

- (146) J. F. ヴィルベルク著『わが生涯の思い出』(J. F. Wilberg, *Erin-
nerungen aus meinem Leben, nebst Bemerkungen über Erziehung, Unterricht,
und verwandte Gegenstände.*)。エッセン 1836年刊。

23-30, 41-42頁：ロヒョーおよびルードルフについて。

- (147) O. シュルツ「初等学校制度に関する 国务大臣フォン・ツェード
リッツならびに 聖堂参事会員フォン・ロヒョーの見解」(O. Schulz,
*Ansichten des Ministers von Zedlitz und des Domherrn von Rochow über
das Elementarschulwesen*)。O. シュルツ, F. L. シュトリーツ, H. W. ウ
ーレ編集『ブランデンブルク州学校通信』(Schulbatt für die Provinz
Brandenburg. Herausgegeben von O. Schulz, F. L. Striez, H. W. Ule),
第5年次分, ベルリン 1840年刊, 135-146頁所収。

- (148) R. W. フォン・シェンニング著『プロイセン近衛甲騎兵連隊100年
史』(K. W. von Schöning, *Geschichte des Kgl. Preußischen Regiments
Garde du Corps zu seinem hundertjährigen Jubelfeste*)。ベルリン 1840年
刊。

- (149) H. ヘッペ著『ドイツ民衆学校制度史』(H. Heppe, *Geschichte des deutschen Volksschulwesens*), 第1巻。ゴータ 1858年刊。

123-173頁: § 10. 「大聖堂参事会員フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの教育改革」。173-177頁: § 11. 「ロヒョー式学校組織の流行」。

[所在, 九州大学付属図書館]

- (150) F. A. トレンデレンブルク著『フリードリヒ大王とその国務大臣フォン・ツェートリッツ男爵』(F. A. Trendelenburg, *Friedrich der Große und sein Staatsminister Freiherr von Zedlitz. Eine Skizze aus dem preussischen Unterrichtswesen. Vortrag geh. am 27. Jan. 1859 in der königl. Akademie der Wissenschaften*)。ベルリン 1859年刊。

- (151) フリードリヒ・アウグスト・フォン・ロヒョー著『ロヒョー家の歴史』(Friedrich August von Rochow, *Nachrichten zur Geschichte des Geschlechts derer von Rochow und ihrer Besitzungen*)。ベルリン 1861年刊。

148-153頁: フリードリヒ・エーベルハルト [・フォン・ロヒョー]。

- (152) L. W. ザイファルト著『村落学校—教育学史への一寄与—』(L. W. Seyffarth, *Die Dorfschulen. Ein Beitrag zur Geschichte der Pädagogik*)。ベルリン 1867年刊。

21-41頁: 「F. E. v. ロヒョーの学校改革」。

- (153) K. A. シュミート編『教育制度および学制百科事典』(*Encyklopädie des gesamten Erziehungs- und Unterrichtswesens. Herausgegeben von K. A. Schmid*), 第7巻。ゴータ 1869年刊。

203-218頁: ロヒョー。(W. Thilo 執筆)。

フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの生涯、思想および業績について (その4) (159)

b. 同一書名。改訂第2版，第7巻。ライプチヒ 1886年刊。

244-259頁：ロヒョー。(W. Thilo 執筆)。

[所在，東京教育大学教育学図書室。]

(154) クリービツチュ「エーベルハルト・フォン・ロヒョー」(Kriebitzsch, *Eberhard von Rochow*)。F. ヘルメス編集『ストア』(Stoa. Zeitschrift für die Interessen der höheren Töchterschulen. Herausgegeben von F. Hermes), 第2巻，ベルリン 1869年刊，520頁および85-95頁所収。

(155) ノイマイアー著『ドイツ民衆学校の改革者，ロヒョーとフェルビガー』(Neumaier, *Die Reformatoren der deutschen Volksschule: Rochow und Felbiger*. Progr. des Bad. Kathol. Schullehrerseminars Ettlingen)。エットリンゲン 1872年刊。

(156) F. ティーグス「エーベルハルト・フォン・ロヒョー」(F. Tiegs, *Eberhard von Rochow*)。K. ボルマン，C. ライヒヘルム，E. ホーンホルスト編集『ブランデンブルク州学校通信』，第37年次分，ベルリン 1872年刊，176-184頁所収。

(157) F. E. ケーラー著『プロイセン民衆学校制度史』(Fr. Eduard Keller, *Geschichte des Preußischen Volksschulwesens*)。ベルリン 1873年刊。

ロヒョーについては，86，108，203頁。

[所在，九州大学付属図書館]

(158) W. ロッシャー著『ドイツ経済学史』(Wilhelm Roscher, *Geschichte der National= Oekonomik in Deutschland*)。ミュンヘンおよびベルリン 1874年刊。

ロヒョーについては、とくに 823 頁。

〔所在、小樽商科大学付属図書館〕

- (159) K. シュミット著『教育学史』 (Karl Schmidt's *Geschichte der Pädagogik, dargestellt in weltgeschichtlicher Entwicklung und im organischen Zusammenhange mit dem Culturleben der Völker*), 第 3 版, 第 3 卷。ケーテン 1875 年刊。

148-153 頁「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」

- b. 同一書名, 改訂・増補・第 4 版 (Vierte, vielfach vermehrte und verbesserte Auflage von Wichard Lange), 第 3 卷。ケーテン 1883 年刊。

688-702 頁: 「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」

〔所在、東京教育大学教育学図書室〕

- (160) ダンナイル著『公爵領マグデブルクにおける福音派村落学校制度の歴史』 (Danneil, *Geschichte des evangelischen Dorfschulwesens im Herzogtum Magdeburg*)。1876 年刊。

- (161) C. ケール編「レカーン学校参観者名簿——エーベルハルト・フォン・ロヒョー(1773-1805年)の時代のために」 (*Verzeichnis der Besucher der Reckahnschen Schule. Zur Zeit Eberhard von Rochow's 1773-1805. Mitgeteilt von C. Kehr*)。C. ケール編集『教員養成ならびに教員養成学校のための教育学雑誌』 (*Pädagogische Blätter für Lehrerbildung und Lehrerbildungsanstalten. Herausgegeben von C. Kehr*), 第 7 卷, ゴータ 1878 年刊, 225-248 頁所収。

なお, この「名簿」は『全集』第 4 卷 437-463 頁に再録されている。

- (162) C. ケール「ハルパーシュタット教師養成所史」(C. Kehr, *Die Geschichte des Schullehrer= Seminars zu Halberstadt. Festschrift zur Feier seines hundertjährigen Bestehens am 10. Juli 1878*)。C. ケール編集『教員養成ならびに教員養成学校のための教育学雑誌』, 第7巻, ゴータ 1878年刊, 329-472頁所収。
- (163) ケッペン「レカーンの教育学者フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーとハインリヒ・ユーリウス・ブルンス」(Köppen, *Die Pädagogen von Reckahn, Friedrich Eberhard von Rochow und Heinrich Julius Bruns*)。プロイセン民衆学校教師組合機関紙『プロイセン学校新聞』(Preußische Schulzeitung. Organ des Landesvereins preußischer Volksschullehrer), 1878年第1・2号所収。
- (164) R. シュターデルマン著『プロイセン王家とその農村文化事業』(R. Stadelmann, *Preußens Könige in ihrer Thätigkeit für die Landescultur*)。第2部: フリードリヒ大王。ベルリン 1882年刊。
- (165) クリュージャー著『エーベルフルト・フォン・ロヒョー』(Krüger, *Eberhard von Rochow. Pädagogische Abhandlungen. X, 10*)。ビーレフェルト 発行年月不明。
- (166) K. シュミット著『教育および教授史』(Karl Schmidt's *Geschichte der Erziehung und des Unterrichts. Für Schul= und Predigtamts=Candidaten, für Volksschullehrer, für gebildete Eltern und Erzieher übersichtlich dargestellt*), 第4版 (Vierte Auflage von Wichard Lange)。ケーテン 1883年刊。

ロヒョーについては, 316-333頁に詳しい。

[所在, 田中]

- (167) Fr. ヨーナス「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」
(Fritz Jonas, *Friedrich Eberhard von Rochow. Rede*). ベルリン 1885
年刊。
- (168) E. ツェラー著『哲学者としてのフリードリヒ大王』(Eduard Zeller,
Friedrich der Große als Philosoph). ベルリン 1886年刊。
- (169) K. フィッシャー著『民衆教育者としてのフリードリヒ大王』(K.
Fischer, *Friedrich der Große als Erzieher seines Volkes*). トリール 1886
年刊。
- (170) H. ヤーンケ著『エーベルハルト・フォン・ロヒョーまたはレカーンの
の学校』(H. Jahnke, *Eberhard von Rochow oder die Schule von Reckahn.
Eine vaterländische Erzählung*). ベルリン 1888年。
- (171) C. ケール編『民衆学校教授方法史』(*Geschichte der Methodik des
Volksschulunterrichts*, Herausgegeben von C. Kehr)。第1巻および第2
巻。ゴータ 1889年刊。
ロヒョーについては、第1巻、136頁。第2巻、フェヒナーの論文。
〔所在、東北大学付属図書館、広島大学教育学図書室〕
- (172) W. ピールゾン著『プロイセン史』(William Pierson, *Preußische
Geschichte*) 改訂・増補第4版、第1巻。ベルリン 1889年刊。
ロヒョーについてはとくに406, 429頁。
〔所在、田中〕
- (173) A. パンロッシュ著『18世紀のドイツにおける教育改革。バゼドー

と汎愛主義』(A. Pinloche, *La réforme de l'éducation en Allemagne au XVIII. siècle : Basedow et le philanthropisme*)。パリ 1889年刊。

420-432 頁にロヒョーについて論述がなされている。

- b. A. パンロッシュ著『汎愛主義の歴史』(A. Pinloche, *Geschichte des Philanthropinismus*. Deutsche Bearbeitung von J. Rauschenfels und A. Pinloche)。第1版, ライプチヒ 1896年刊。第2版(無改訂)ライプチヒ 1914年。

ロヒョーについては, とくに第8章(361-370頁)を参照。

[所在, 東北大学付属図書館, 京都大学教育学部図書室]

- (174) ビンダー「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」(Binder, *Friedrich Eberhard von Rochow*)。『一般ドイツ伝記叢書』(Allgemeine deutsche Biographie), 第28巻, ベルリン 1889年刊, 所収。

- (175) G. ウールホルン著『キリスト教的愛の活動』(G. Uhlhorn, *Die christliche Liebestätigkeit*), 第3巻。シュトゥットガルト 1890年刊。

- (176) K. フィッシャー著『ドイツ民衆学校教師階級の歴史』(Konrad Fischer, *Geschichte des deutschen Volkslehrstandes*), 第1巻。ハンノーヴァーおよびベルリン 1892年刊。

ロヒョーについては, とくに 317-321, 331, 341-343 頁に詳しい。

- b. 同一書名, 増補第2版。ハンノーヴァーおよびベルリン 1988年刊。
ロヒョーについては, とくに 317-343 頁に詳しい。

[所在, 東京教育大学教育学図書室, 九州大学付属図書館]

(164)

人 文 研 究 第三十三輯

(177) G. パトリック「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーと教育学上におけるその意義」(Grigore Patriciu, *Friedrich Eberhard von Rochow und dessen Pädagogische Bedeutung*)。ライプチヒ大学哲学部学位請求論文。ライプチヒ 1892年刊。

(178) F. リュトホルツ「ロヒョーの汎愛主義にたいする関係について」(Friedrich Lütholz, *Über das Verhältnis Rochows zum Philanthropismus*)。ライプチヒ大学哲学部学位請求論文。ライプチヒ 1894年刊。総頁数 41 頁。

(179) G. ポーリシュ「聖堂参事会員 E. フォン・ロヒョーの教育学上における功績について」(Gustav Pohlich, *Über die pädagogischen Verdienste des Domherrn E. v. Rochow*)。ライプチヒ大学哲学部学位請求論文。ツヴィコウ 1894年刊。総頁数 97 頁。

(180) K. フォン・ラウマー著『教育学史』(Karl von Raumer, *Geschichte der Pädagogik vom Wiederaufblühen klassischer Studien bis auf unsere Zeit*), 第6版, 第3部。ギュータースロー 1897年刊。

ロヒョーについては, 294-308 頁に詳しい論述がなされている。

[所在, 東京教育大学教育学図書室]

(181) K.A. シュミート著『教育史』(K.A. Schmid, *Geschichte der Erziehung vom Anfang an bis auf unsere Zeit*), 第4巻, 第2部。シュトゥットガルト 1898年刊。

446-476 : 「E. v. ロヒョー」, および 358 363, 504 頁。

[所在, 東京教育大学教育学図書室, 広島大学教育学図書室]

- b. 同一書名, 第5巻, 第3部。シュトゥットガルトおよびベルリン 1902年刊。

109頁にロヒョーとプロイセン民衆学校との関係, また118-122頁に教師養成史上におけるロヒョーの業績について叙述がなされている。

[所在, 東京教育大学教育学図書室, 広島大学教育学図書室]

- (182) F. パウルゼン著『古典語教育史』(Friedrich Paulsen, *Geschichte des gelehrten Unterrichts auf den deutschen Schulen und Universitäten vom Ausgang des Mittelalters bis zur Gegenwart*), 改訂・増補第2版, 第2巻。ライプチヒ 1897年刊。

59, 77頁: ロヒョー。

[所在, 田中]

- (183) F. ビュンガー著『民衆学校用読本の発達史』(Ferd. Bünger, *Entwicklungsgeschichte des Volksschullesebuches*)。ライプチヒ 1898年刊。

127-160頁: 第2篇第1章「ロヒョーの子どもの友」。161-200頁: 同篇第2章「ロヒョーの後継者」。

[所在, 東京大学教育学部図書室]

- (184) W. オステルマン著『教員養成所生徒用教育学読本』(W. Ostermann, *Pädagogisches Lesebuch für Lehrerseminarien*), 第2版。オルデンブルクおよびライプチヒ 1901年刊。

276-309頁: 「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」。

- (185) E. クラウスニッツァー「フリードリヒ大王治下のプロイセン民衆学校史のために。史料的研究」(Eduard Clausnitzer, *Zur Geschichte der preußischen Volksschule unter Friedrich dem Grossen*)。月刊雑誌『ドイツの

学校』(Deutsche Schule, Herausgegeben im Auftrage des Deutschen Lehrervereins von Robert Rissmann), 第V年次分, ベルリンおよびライプチヒ 1901年刊, 343-366頁, 411-428頁所収。

ロヒョーについては, とくに 416-425 頁で考察が試みられている。

[所在, 広島大学教育学図書室]

(186) R. コーザー著『国王フリードリヒ大王』(Reinhold Koser, *König Friedrich der Große*), 第1および第2版, 第2巻。シュトゥットガルトおよびベルリン 1903年刊。

(187) L. ケルナー著『教育史』(L. Kellner, *Erziehungsgeschichte in Skizzen und Bildern. Mit besonderer Rücksicht auf das Volksschulwesen*), 改訂・増補第2版, 第2巻。エッセン 1870年刊。

123-155頁: フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。

(189) T. チグラ著『教育学史』(Theobald Ziegler, *Geschichte der Pädagogik mit besonderer Rücksicht auf das höhere Unterrichtswesen*), 第2版。1904年刊。

ロヒョーについては 241 頁以下。

b. 同一書名, 増補第4版。ミュンヘン 1917年刊。

ロヒョーについては 257 頁以下。

(190) ヘーマン著『近世教育学史』(Hemann, *Geschichte der Neuern Pädagogik*)。1904年刊。

235 頁以下: ロヒョー。

- (191) H. シラー著『教育学史教科書』(H. Schiller, *Lehrbuch der Geschichte der Pädagogik*), 第4版。ライプチヒ 1904年刊。
298頁以下: ロヒョー。
- (192) ラウシュ著『教育学史』(Rausch, *Geschichte der Pädagogik*), 第2版。1905年刊。
111頁以下: ロヒョー。
- (193) クナーベ著『ドイツ教育制度史』(Knabe, *Geschichte des deutschen Schulwesens*)。1905年刊。
98頁以下: ロヒョー。
- (194) クリーク著『教育学教科書——歴史と理論——』(Krieg, *Lehrbuch der Pädagogik. Geschichte und Theorie*), 第3版。1905年刊。
214頁以下: ロヒョー。
- (195) O. ベーレ著『ブランデンブルク=プロイセン統計史』(O. Behre, *Geschichte der Statistik in Brandenburg=Preußen bis zur Gründung des königl. statistischen Bureaus*)。ベルリン 1905年刊。
- (196) M. ライニガー著『プロイセン農村学校制度の改革者フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー』(M. Reiniger, *Friedrich Eberhard von Rochow, der Reformator des preußischen Landschulwesens*)。1905年刊。
- (197) F. ブーフホルツ著『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー』(Fr. Buchholtz, *Friedrich Eberhard von Rochow. Ein Bild seines*

Lebens und Wirkens zur 100. Wiederkehr seines Todestages den Gemeinden Reckahn, Krahn mit Notscherlinde, Göttin und Meßdunk dargeboten). プランデンブルク 1905年刊。

(198) ヤーンケ著『農民の恩人フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー』(Jahnke, *Friedrich Eberhard von Rochow, ein Wohltäter des Landvolkes*), 第2版。1905年刊。

(199) F. ヨーナス「エーベルハルト・フォン・ロヒョー」(Fritz Jonas, *Eberhard von Rochow*)。C. ケール編集『教員養成ならびに教育養成学校のための教育学雑誌』, 第34巻, ゴータ 1905年刊, 289-292頁所収。

(200) [P. トート,]「《マルクのペスタロッチ》フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」([P. Todt,] *Friedrich Eberhard von Rochow, der „Pestalozzi der Mark“*)。『新プロイセン〔十字=〕新聞』(Neue Preußische [Kreuz=] Zeitung), 1905年次分, 225, 227, 229, 231号(記念号)所収。

(201) ミュラー=ブランデンブルク「フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョーの回想のために——1905年5月14日レカーン公園にて開催された〔ロヒョー〕100年祭における挨拶」(Müller=Brandenburg, *Zur Erinnerung an Friedrich Eberhard von Rochow. Ansprach, gehalten bei der Jahrhundertfeier am 14. Mai 1905 im Park von Reckahn*)。H. A. ケストリン, P. ヴェルスター編集『司牧神学雑誌』(Monatsschrift für Pastoraltheologie. Herausgegeben von H. A. Köstlin und P. Wurster), 第2年次分, 第1号, ベルリン 1905年, 38-40頁所収。

- (202) エーベルハルト「気高い教育学者フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー」(Eberhard, *Friedrich Eberhard von Rochow, ein adeliger Pädagoge*)。M. フォン・ナトゥージウス, U. フォン・ハッセル編集, 月刊雑誌『都市と農村』(Monatsschrift für Stadt und Land. Herausgegeben von M. v. Nathusius und U. v. Hassell), 第62年次分, 第4・5号, ベルリン 1905年刊, 332-341, 440-449頁所収。
- (203) 『ブランデンブルク・アン・デア・ハーヴェル・リッターアカデミー創立200周年記念論文集』(*Festschrift zur 200 jährigen Jubelfeier der Ritterakademie auf dem Dome zu Brandenburg a. H.*)。ブランデンブルク・アン・デア・ハーヴェル 1905年刊。
- (204) 『ライプチヒ教師新聞』(*Leipziger Lehrerzeitung*), 1905年 XII号。45, 46頁: ロヒョー。
- (205) 『ザクセン学校新聞』(*Sächsische Schulzeitung*), 1905年 72号。
- (206) 『ケルン民衆新聞』(*Kölnische Volkszeitung*), 1905年5月15日号, Nr. 397. (Mauel 執筆)。
- (207) 『コメニウス協会月報』(*Das Monatsheft der Comenius-Gesellschaft*), 1905年次分。1905年刊。152頁: ロヒョー (Albrecht 執筆)。
- (208) 『教育学月刊雑誌』(*Die Pädagogische Monatsheft*), 1905年次分。1905年刊。281頁: ロヒョー (Fröhring 執筆)。

(170)

人文研究 第三十三輯

- (209) E. シェファー著『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。その生涯と活動』(Ernst Schäfer, *Friedrich Eberhard von Rochow. Ein Bild seines Lebens und Wirkens*)。総頁数 100 頁。ギューターズロー 1906 年刊。

[所在, 東北大学付属図書館]

- (210) F. パウルゼン著『ドイツ教育制度発達史』(Friedrich Paulsen, *Das deutsche Bildungswesen in seiner geschichtlichen Entwicklung*)。ライプチヒおよびベルリン 1906 年。

89 頁: ロヒョー。

[所在, 田中]

- b. 同一書名, 第 4 版。ライプチヒおよびベルリン 1920 年刊。

89-90 頁: ロヒョー。

- c. 同上書英訳版, T. ローレンツ訳『ドイツの教育——過去と現在——』(Friedrich Paulsen, *German Education. Past and Present*. Translated by T. Lorenz)。ロンドン 1908 年刊。

143 頁: F. E. v. ロヒョー。

[所在, 小樽商科大学付属図書館]

- (211) ザイラー著『ドイツ教育制度史』(Seiler, *Geschichte des deutschen Unterrichtswesens*)。1906 年刊。

112 頁: ロヒョー。

- (212) ハイルマン著『教育学史』(Heilmann, *Geschichte der Pädagogik. Handbuch der Pädagogik III*), 第 6 版。1906 年刊。

214 頁：ロヒョー。

- (213) A. ショルン著『教育学史』(A. Schorn, *Geschichte der Pädagogik in Vorbildern und Bildern*), 第 24 版。ライプチヒ 1907 年刊。

287 頁以下：ロヒョー。

- (214) C. シュヴァルツ著『E. v. ロヒョーと汎愛派との関係』(C. Schwarz, *Inwiefern E. v. Rochow von den Philanthropen abhängig und inwiefern wandelt er eigene Bahnen?*)。ビーレフェルト 1907 年刊。

- (215) F. ヴィーネッケ著『プロイセン衛戍学校制度』(*Friedrich Wienecke, Das preußische Garnisonschulwesen. Beihefte zu Mitteilungen der Gesellschaft für deutsche Erziehungs- und Schulgeschichte*)。ベルリン 1907 年刊。

ロヒョーについては, 17, 19, 38, 52 頁。

[所在, 九州大学付属図書館]

- (216) E. シュレック著『フリードリヒ・エーベルハルト・フォン・ロヒョー。その生涯と教育学上の著作』(E. Schreck, *Friedrich Eberhard von Rochow. Sein Leben und seine pädagogische Schriften*)。1908 年刊。

- (217) W. ライン編『教育学百科辞典』(*Encyklopädisches Handbuch der Pädagogik. Herausgegeben von Wilhelm Rein*), 第 2 版, 第 7 巻。ランゲンザルザ 1908 年刊。

576-585 頁：「ロヒョー」(Th. Klähr)

[所在, 東京教育大学教育学図書室]

- (218) フォン・コズロウスキー「ヨハン・ゲオルク・シュロッサーの《農

民のための修身問答書」に寄せて」(von Kozlowski, *Beiträge zum „Katechismus der Sittenlehre für das Landvolk“ von Johann Georg Schlosser*)。『ドイツ教育=学校史学会会報』(Mitteilung der Gesellschaft für deutsche Erziehungs= und Schulgeschichte), 第17年次分, ベルリン 1907年刊, 57-68頁所収。

〔所在, 広島大学教育学図書室〕

(219) H. レヴィン著『プロイセン民衆学校発達史』(Heinrich Lewin, *Geschichte der preußischen Volksschule und der Förderung der Volksbildung durch die Hohenzollern*)。ライプチヒ 1910年刊。

124-130頁:「エーベルハルト・フォン・ロヒョー」

〔所在, 石川 謙〕

(220) Th. フリッチュ著『汎愛主義と現代』(Th. Fritsch, *Philantropinismus und Gegenwart*)。1910年刊。

(221) E. シェーベル著『フリードリヒ・ガブリエル・レーゼヴィッツの教育学上における努力。18世紀教育学史への一寄与』(Emil Schöbel, *Die Pädagogischen Bestrebungen von Friedrich Gabriel Resewitz. Ein Beitrag zur Geschichte der Pädagogik des 18. Jahrhunderts. Inauguraldissertation zur Erlangung der Doktorwürde bei der philosophischen Fakultät der Universität Leipzig*)。アンナベルク 1912年刊。

〔所在, 九州大学付属図書館〕

(222) Th. フランケ著『学校と教育とにおける国家思想の歴史』(Th. Franke, *Geschichte des Staatsgedankens in Schule und Erziehung*)。ライプチヒ 1912年刊。

ロヒョーについては、54-55, 66, 84-85 頁。

〔所在、東北大学付属図書館〕

- (223) E. シュプランガー「近代における政治と教育との関連。ドイツ教育立法および教育法規史の梗概」(Eduard Spranger, *Der Zusammenhang von Politik und Pädagogik in der Neuzeit. Umriss zu einer Geschichte der deutschen Schulgesetzgebung und Schulverfassung*)。『ドイツの学校』, 第 XVIII 年次分, ベルリン 1914 年刊, 所収。

ロヒョーについては、とくに 294-295, 358-359 頁。

〔所在、広島大学教育学図書室〕

- (224) C. ミュラー著『プロイセン民衆学校史綱要』(C. Müller, *Grundriß der Geschichte des preußischen Volksschulwesens*), 増補・第 5・6 版。オスターヴィーク・ハルツおよびライプチヒ 1914 年刊。

80-85 頁:「国務大臣 フォン・ツェートリッツ, 男爵 フォン・ロヒョー」。

〔所在、広島大学教育学図書室〕

- (225) G. ヘラー著『ペスタロッチと汎愛派』(G. Heller, *Pestalozzi und die Philanthropen*)。1914 年刊。

- (226) M. ゾンメルフェルト「啓蒙主義と国民思想」(M. Sommerfeld, *Aufklärung und Nationalgedanke*)。『文学のこだま』(Das literarische Echo), 第 17 年次分, ベルリン 1914-15 年刊, 所収。

- (227) F. フォルマー著『フリードリヒ大王治下のプロイセン民衆教育政策』(Ferdinand Vollmer, *Die preußische Volksschulpolitik unter Friedrich*

dem Großen. Monumenta Germaniae Paedagogica, Bd. LVI)。ベルリン 1918 年刊。

ロヒョーについては, 94, 140-145, 149, 154-155, 164, 204-206, 208, 211-212, 214-216, 219, 242, 251, 262, 288, 290 頁。

[所在, 東京教育大学教育学図書室]

(228) G. コムペイレ著『教育学史』(Gabriel Comayré, *The History of Pedagogy*, Translated, with an Introduction, Notes, and an Index by W.H. Payne), 第9版。ロンドン 1918 年刊。

415 頁: ロヒョー。

[所在, 田中]

(229) クルムカー著『社会福祉制度』(Klumker, *Fürsorgwesen. Wissenschaft und Bildung*, Bd. 146)。ライプチヒ 1918 年刊。

(230) P. カルチュミット「ロヒョーにおける国民教育」(P. Kaltschmidt, *Die Nationalerziehung bei Rochow*)。ライプチヒ大学哲学部への学位請求論文。ライプチヒ 1920 年刊。

(231) A. ホイバウム著『J. ハイน์リヒ・ペスタロッチ』(A. Heubaum, *J. Heinr. Pestalozzi*), 第2版 (Zweite durchgesehene Auflage besorgt von Karl Muthesius)。ベルリン 1920 年刊。

ロヒョーについては, 53, 59, 74, 75, 90-91, 100, 245 頁。

[所在, 広島大学教育学図書室, 田中]

[未完]